

呑川の植物レポート「2021年 5月～6月」

今年は梅雨入りが早いと天気予報に有りましたが、関東方面も近々梅雨に入るのでしょうか。

呑川沿いには多くのアジサイが見られます。ゆうつな梅雨空のもとでも私たちを楽しませてくれる花々は青色、ピンク、白色と鮮やかな「紫陽花」です。また最近少なくなった「ビヨウヤナギ」も花色が目を引きます。今回は雨に映える野草、花木を取り上げてみました。

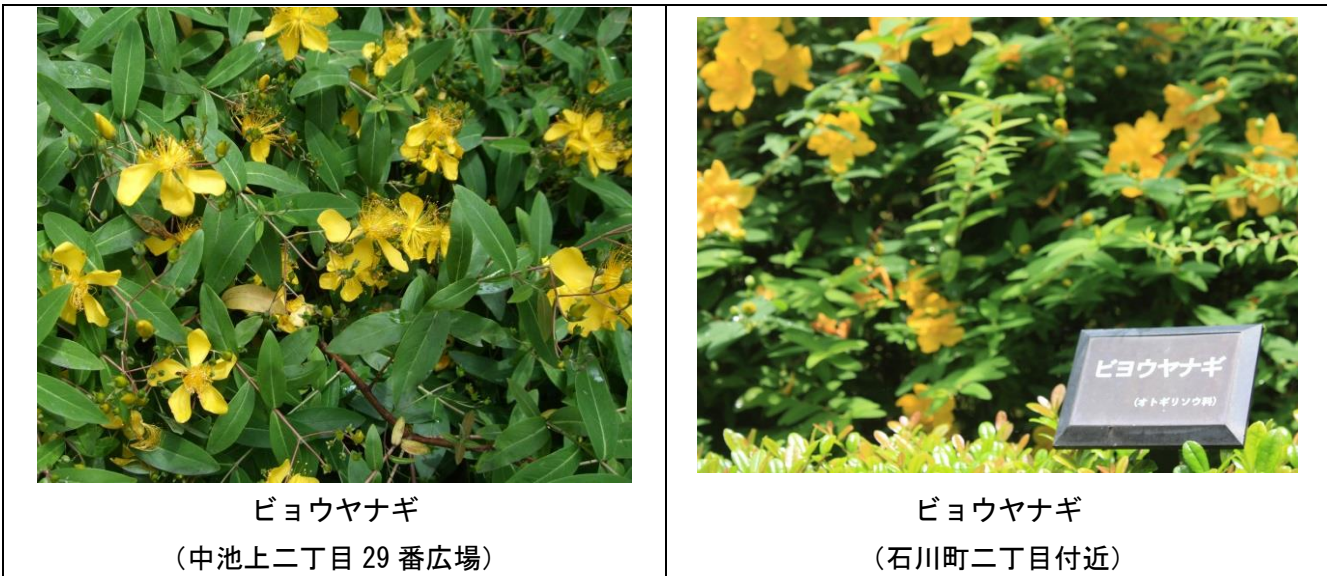


「アジサイ」 紫陽花 落葉低木 アジサイ科

梅雨の景色には欠かせない花と思われている、アジサイは、八重咲きや一重咲などバリエーションがあり、紫陽花図鑑（花の手帳）には319種も紹介されている。大きくはガクアジサイの母種、ニホンアジサイとセイヨウアジサイの2種に分けられる。原産地である日本から中国経由で英国に渡り品種改良された。アジサイの原種の一つ、ガクアジサイは縁にだけ小花4枚が付く平たい形で、本当の花はごく小さい部分に見られる。

日本名のアジサイは、青い花が集まって咲くので「集真藍」（あさあい）が由来とされている。花色は土壌の影響により酸性土壌の場合青、アルカリ性土壌はピンクとあります。梅雨時期は挿し木で殖やせる。

花言葉：移り気、冷酷、また団らん、和気あいの書もあり。



「ビヨウヤナギ」 美容柳 半落葉性低木 オトギリソウ科、

中国原産の花木、江戸時代観賞用として渡来した。地際から多くの細い枝をだし株立ちになる。新梢の茎は細く草本のように感じる。黄金色の花が上向きに咲き、多数の雄しべが突出するのが特徴。開花6～7月、枝先が垂れ下がり葉が柳に似ている。葉は十字に対生、鋸歯はない。黄金色の花は金糸のような長い雄しべが見られる。草丈約1m、半日日陰でも育つ、耐寒性、耐暑性があり公園の植栽に採用される。似た植物でキンシバイは同じオトギリソウ属で、花はビヨウヤナギより小さい。花言葉：気高さ、多感



建物の外壁に成長したテイカカズラ



テイカカズラの花（西蒲田一丁目）

「テイカカズラ」 定家葛 常緑つる性広葉中木 キョウチクトウ科

呑川沿いでは建物の外壁に沿わした事例が見られますが、公園（久が原光児童公園）にも植えられています。5～6月に咲く五弁の花は3cm程で強い香りがあり、プロペラの形にみえます。葉や茎を切ると白い乳液が出る（有毒）、10月ころ成熟する果実は細長い袋状で種子（1cm）は白い綿毛（3cm）があり、風に乗って飛ぶ。和名は内親王を愛した藤原定家の伝説と云われている。樹が若いうちは地上を這うように生育するが、適当な木や岩を見つけ付着根を使って上方に伸びる性質を持つ。また、地を這う時と木などによじ登ると時は葉の形が異なる。



ホタルブクロ（道々橋附近）



サンゴジュ（樹林寺）

「ホタルブクロ」 蛍袋 キキョウ科、

日本原産、多年草、初夏から夏の前半（6～7月）にかけて釣鐘形の花を茎に多数咲かせる。花色は白、紫、ピンク色がある。昔から親しまれてきた花でチョウチンバナ、アメフリバナ、ホタルバナ、ツリガネソウなど別名が多い。草丈40～80cm、葉は披針形で鋸歯があり根性葉と違う形となる。5～8cm、全体に毛がある。日陰でも育ち、一度植えれば毎年増える。園芸品種もある。原産地は日本、中国、朝鮮。花言葉：忠実、正義

「サンゴジュ」 珊瑚樹 常緑広葉高木 スイカズラ科

日本で最も耐火力の強い樹木とされる。火災や熱に葉を晒しても水を保持してかなり耐えるため、防火の目的で植えられることもある。樹姿は直立する。白い花（5～6月）は甘く強い芳香があり昆虫が集まる。核果（8～10月）は真紅から黒く熟す。樹高は3～10m。秋に出来る赤い実が珊瑚に似ているとして名づけられた。

参考図書 雑草や野草がよくわかる本 著者、岩槻秀明 発行所、㈱秀和システム

都市の樹木 著者、岩崎哲也 発行所、㈱文一総合出版

一部 Wikipedia で検索しました。